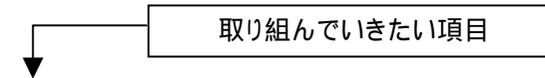


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念	開所時に法人理念に基づいたグループホーム理念を設定しており、各入居者がその人らしい暮らしを続けられるよう努めている		
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
	理念の共有と日々の取り組み	ケア時、またミーティング時に振り返りをし、「その人らしさ」をサポートできるよう努めている		
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
	家族や地域への理念の浸透	法人全体としてミニコンサート、講演会、バザー等開催し、また市のイベントなどに参加している		事業所としての取り組みはいまひとつで、運営推進会議の開催をいど。定期的な家族会の開催や、ごく近隣への周知に取り組む余地あり
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる			
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい	えん開催のイベントへの勧誘や、地域のイベントへの参加を心がけているが、まだまだ日常的な付き合いにまでは至れていない		地道な活動が実を結ぶ(地域に浸透していく)よう、今までどうり継続してゆく
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている			
5	地域とのつきあい	近隣の小学校の運動会へ観戦に行ったり、夏祭りに立ち寄ったりしている		
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として2ヶ月に1回「地域家族会」(グループホーム入居者の家族会ではない)を開催している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	具体的な改善にまでは至れていない		職員意識や事業所活動にフィードバックをしていきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ「報告」にとどまっており、詳細な改善案などについての話し合いには至れていない		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時(事故報告など)でいど。定期的な機会を設けてはいない		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については過去適用ケースの入居者がおり、そのときに学習をした(それっきりでもある)		定期的に学習の機会を設けたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律についての特別な学習はしてはいない。GH内で虐待がおこらぬようにスタッフ間の連携に努めている。また、研修生やボランティアの存在(目)も虐待防止につながっていると思われる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	聞き取り、説明など丁寧に行なっている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居者が不満を口に、あるいは表情・態度などに出せるような関係・環境づくりをし、それらを汲み取ったうえでの相互理解ができるように努めている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	金銭については毎月郵送にて、利用者の健康状態などについては家族来訪時、あるいは必要時には電話連絡等でまめに行なっている		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	個別の機会は設けていない。家族がいつでも気軽に訪れられるような環境をつくり、スタッフに対し意見・不満を忌憚なくぶつけられる関係となるよう努めている		定期的なアンケートなどあってよい
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティングで多少の意見交換はできるが、個別の対応はほとんど行なえていない		個別のカウンセリング的なものも検討したい
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	常に柔軟な対応ができるほどにはスタッフ数に余裕はない。イベントなどがあればそれに向けての人員配置は考慮している		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	環境の変化に入居者ができる限り早く慣れてもらえるよう努め、。新入・新任職員へのオリエンテーション・引き継ぎなど配慮している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修への参加機会を設けている。また中堅職員に新人職員指導を担わせる、なども行なっている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの「事例検討会」を開催している。また、外部からの研修生も可能な限り受け入れている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人としてのハイキング企画などはあるが、全スタッフの参加は難しい(勤務シフトなどの都合があり)		検討課題である
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のスタッフ訪問や本人来訪を複数回設けられるよう、また丁寧に聞き取りをするよう努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のスタッフ訪問や家族来訪を複数回設けられるよう、また丁寧に聞き取りをするよう努めている。当法人内他事業所(デイサービス、ホームヘルプ等)からのスライド利用ではより時間をかけることができる		家族のニーズと現場で対応できることのギャップをよく知ってもらうことがより必要

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状態や家族の介護力・経済状況など考慮して入居の可否・待機などの判断をし、当法人内他事業所や外部の医療施設などの情報も提供している</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人来訪による事前見学をすすめており、入居前に併設デイサービスを利用してもらう場合もある(いきなり入居、というケースもあるが)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事などを通じ相互に学びあい支えあっている</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とスタッフ全員が相談しあえるよう、コミュニケーションを重ねている</p>		<p>なかなか来訪の機会をつくれないう家族とも、いっそうの連携を図っていきたい</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>努めている。よりよい関係づくりのため、スタッフが緩衝材になれるように配慮する</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族・親族・友人など来訪者については制限を設けておらず、自宅などへの外泊も可能である(体調不良などの事情がない限り)</p>		<p>スタッフは現場業務で手一杯であり、(別途支援者がいない場合の)外出まではサポートできていない。できるかぎり実現したい</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>ひとりでの時間、皆と過ごす時間をそれぞれ大切にできるようにサポートする。食事時の座席配置など工夫している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>「えん通信」の送付、イベントへのお誘いなどを行っている。他施設へ入所された方の場合、その施設からの問い合わせ・相談など“いつでもどうぞ”と退去家族に伝えている。</p>		<p>日ごろからグループホームケアの意義や限界を家族に理解してもらうことで、退去時にきちんとした納得を得られるようにしていきたい。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケース記録などを活用し、スタッフ間で情報の共有を重ね、把握に努めている</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>努めている</p>		<p>生活歴など、入居前の聞き取りだけでは不十分なことも多々あり、入居後も本人・家族・友人らと確認していきたい</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々のケース記録などを集積し、総合的な現状把握は努めている</p>		<p>共同生活のなかで個別ケアも軽視せずに行きたい</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族カンファレンス・ケース記録・ミーティングを反映したものである。</p>		<p>スタッフには、ミーティングでの発言などもプラン作成への参加になっているという意識をきちんと持ってもらう。介護計画の充実には、スタッフ間の意見交換を丁寧に行ない、それらのいっそうの集積・検討を行なうことが必要である</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定期間に応じた見直しはできていない。急激な変化にはまず現場の対応重視であり、介護計画の変更は後となる</p>		<p>状況に応じた見直しに努める</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、情報の共有・実践はできている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院 自宅外泊や、家族来訪 食事同席といった支援をしている。ほか、併設デイの送迎担当の協力を得てのドライブで気分転換を図るなどしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各機関との協働までは至っていない。ボランティアスタッフは複数名いる		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	? グループホーム入居では他ケアマネはつかえないが?		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター自体が「介護予防のケアプラン」業務に追われている現状。ほかまで手はまわらないようである		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居以前からのかかりつけ医への受診。必要に応じ、受診時スタッフ同行、えんへの往診、主治医変更の相談など行なっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	看護職員を中心に行なっている。かかりつけ医が認知症専門医でない場合など、家族と相談しながら専門医受診の手立てを探るなどしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と介護職員が連携し、健康管理や医療機関の活用をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が予想される入居者に関しては適当な医療機関と相談を行なう。実際の入院時には面会や看護師・MSWからの聞き取りを通し、情報交換などしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	話し合い・書面確認をしている。ただし後手になるケース、スタッフ間で方針がなかなか統一されないケースもある		スタッフ間の意識の共有を図りたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ミーティング等での意見を取り入れ、日ごろから食事・排泄・じょくそう予防など工夫している。また、家族やかかりつけ医と連携をとり、緊急時の対応なども想定している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話しあい・情報交換などは努めている。どれほどのカンファレンスを重ねれば十分なのか、ダメージ防止のほどはどれほどか、などは不確定		骨折 入院退去といった緊急ケースについても予測・準備しておく必要がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と接する際は誇りやプライバシーを尊重した対応を心がけているが、言葉かけなどで個人差もみられる。個人情報の取り扱いはスタッフ全員が留意している。	スタッフ間で何度でも再確認したい内容である
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を可能な範囲で実現できるような支援を心がけている。が、時に職員都合(忙しさなど)による決定(衣服選びなど)をしまっている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上 および 一人ひとりのペースを大切にしつつ、場合によって生活リズムづくりの介入をしている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は月一回の散髪ボランティアに依頼したり、本人の希望を聞いて美容院へ行けるよう手配したりしている	起床時の整容などどうしても対応しきれないこともある。対応していきたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や盛り付けの工夫など、職員間で相談している。できる人、やりたいと望む人には下準備や配膳、片付けなどを手伝ってもらっている	外食の機会をふやしたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態などを考慮した支援(提供)である	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンを把握したうえでのトイレ誘導を行ない、失敗しないように(失禁によって落ち込まないですむように)支援している。とはいえ気持ちいいはずはないであろう。また、おむつを着用することで生まれる安心感というものもあり、一概にはおむつ使用を否定していない</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望はできる限り尊重し、身体状況とあわせて入浴の支援を行なっている。平日日中に関しては併設デイサービスの入浴が優先される</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>共用のソファなどでも居眠りができるようなゆるやかな雰囲気づくりをしている。疲れのみえるときなどは臥床しての午睡を薦めている</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの興味や能力に合わせた支援(買い物、歌、習字、花、家事など)を心がけている</p>		生活歴の反映という点は弱いので取り組みたい
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の所持はかまわないが、実際には能動的な使用はむずかしい入居者が大半。事業所が金銭を預かることで安心してもらい、スタッフ同行の買い物時に自分で支払いをしてもらおうといった支援をしている</p>		使う場面に立ち会える機会は増やしたい(実際に使えるか使えないかは別として)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望よりも、スタッフ都合(勤務体制など)による要素が大きい。併設デイの送迎車に同乗させてもらってのドライブ程度はできる</p>		機会を増やしたい
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族付き添いによる単独外出(食事、法事、家族行事などへ)はいつでも可能。複数入居者の団体外出となると、なかなか機会を設けられない</p>		グループホーム行事のような外出の機会を、家族・友人らの協力を得て、実現していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の望むように支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者とスタッフが声をかけあえるような雰囲気づくりをしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などはしていない		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の正しい理解を全スタッフの共通認識としたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮し、把握に努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人的な物品は可能な限り本人が持てるように取り組んでいる。薬に関してはスタッフ預かりとし、施錠棚にて管理している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット報告の導入、歩行介助や食事介助の工夫などしている。ベッド転落のリスクが非常に高い方などは、家族と相談のうえベッド柵を使用することがある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防庁の救命講座や内部研修等で学んでいるが、定期的ではない		定期的な訓練
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をしてはいるが、頻度は低く不十分。近隣の方への働きかけがない		定期的な訓練
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	食事水分摂取困難・転倒・単独外出などの可能性について、早期の説明に努めている。転倒リスクが非常に高い入居者家族へは、(その類に関する)ひやりハット報告を提示したりしている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	声かけ・申し送り・記録の徹底によりスタッフ間の連携を密にしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解に努めている。個人記録ファイルには薬の説明書を添付し、服薬の変更時などにはその周知を徹底するなどしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた飲食物の提供をしている		入居者に応じて体を動かす機会を増やしたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後はできているが、毎食後となると全員にはやりきれていない。一人ひとりにあった歯ブラシの検討や、必要時の訪問歯科の利用はしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアスタッフが入居者の日常と変化を観察して管理栄養士・看護師と連携し、ミキサーの使用、少量5回提供、糖尿病対応などの支援をしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	スタッフだけでなく来訪者にも手洗いうがいを励行。吐しゃ物・は右折物の対応など留意		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士を中心に、洗浄器での食器熱乾燥、布巾・まな板などの漂白、水周りの清潔保持などしている。食材の仕入れは生活クラブや無農薬栽培農家から		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりはやや無機質。花を植えたりしているが親しみやすさには遠い		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音などはその都度配慮。居室窓からの風景は季節を感じられる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	鉤の字状の建築が奏功し、廊下や居間のソファなどを小空間として利用できる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人馴染みの家具など持ち込んでもらっている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や廊下などは空気の流りに配慮したつくりとなっている。時間帯や天候、一人ひとりの状態に合わせた調節をスタッフがこなしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、階段に手すり設置。階段使用が危険と判断される入居者にはスタッフ誘導でエレベータ使用を徹底している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室配置や食事の席どり、トイレ誘導のしかたなど工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階テラスや庭でのお茶飲み、花の好きな人には庭いじりなどしてもらっている。2階ベランダはほぼ洗濯もの干し場となってしまう		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所としてではなく法人としてだが、地域交流（コンサート・バザー・焼き芋会など）を行なうなどし、地域の輪を保ち・広げる努力を続けている点。また、調理・清掃・レクリエーション・運転など多数のボランティアスタッフの支援がある点